

インターバンクの声（2015年11月25日）

欧州情勢が平穏でさえあれば、昨夜の市場にとって普通に第3・四半期の米国内総生産（GDP）改定値の発表が相場材料の中心になっても良かったはずだ。しかし、今は地政学的なリスクが拡大すれば、どうしてもそれが優先される。トルコ軍がロシア軍爆撃機を撃墜したとのニュースに市場の心理が悪化したとあって、またしても円買い、スイスフラン買いのようだ。米GDPの結果は予想通りだったが、しっかり上方修正されたことで、ロシア軍機撃墜のニュースさえ入っていなければ、ドルは堅調だったかも知れない。こうした日の相場観をさらに難しいと感じさせたのが、コンファレンス・ボード（CB）の消費者信頼感指数発表後の相場の反応だ。市場予想の99.5に対して結果は2014年9月以来の低水準となる90.4。どう解釈しても弱い数字だが、発表直後の市場は全くと言っていいほど反応がなかった。良いように解釈すれば、米消費者が実感する足許の消費意欲と乖離があった数字だったのだろう。もっとも米国は明日がサンクスギビング休日で、金曜日も休んでしまえば4日連休だ。市場参加者も少なくなっているのも影響しているのだろう。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。